

現代の企業に問われているのは、企業を持つ本質的な部分を尊重しつつ、時代や環境の変化と共に生き抜いていくことだといえます。「易」の部分に磨きをかけ、「不易」の部分を見直し、企業として磐石な経営基盤を築いていくことが求められます。

易は「変わる」「改まる」という意味であり、不易は「変わらぬ」「不動である」という意味です。日常生活や仕事面で変えるべきは変え、死守すべきは断固として守り通すのです。それはまさに「商法」と「商道」の違いともいえます。

「商法」は、いわゆる商売上のテクニクです。製品の基本的な知識向上や販売テクニク、経営するための戦略戦術、資金調達などです。これらは必要に応じて積極的に変えていかねばなりません。これは易の面です。

「商道」とは、商売人として守るべき道です。そして古来より日本人は、様々な「道」を重ねてきました。変えてはならないものは、絶対に変えずに守り続けていくことです。これが不易の面なのです。

商法（易）と商道（不易）の両者がひとつになった時、事業・商売の繁栄につながっていくのです。

さて「変えるべきもの」の筆頭は、まずは見方・聞き方ではないでしょうか。

見たくない、聞きたくない。

初めから嫌っている場合や、わかっているよ という気持ち強いときは、スナオに受け入れることができません。

## 変える、変わらぬが 事業・商売のポイント



絵・わたなべじゅんじ

曲げて見る、曲げて聞く。とかく誤った解釈が多く出やすい時代です。親切にされても、「あいつは得意がっている」「皮肉を言っている」などと決めつけるケースが見られます。

そのまま見て、そのまま聞く。

こうした見方・聞き方は、家庭を明るく職場を楽しくしていきます。

一方、「守るべきもの」のポイントは何か。  
1・創業精神、経営理念、社是・社訓を一貫する。

独自の技術・技能を生み育てた地域社会に貢献する。

社員や関係者に安定した幸福な人生を送ってもらう。

2・原理原則を守る。

常にお客様に心を向ける。  
喜働の精神で懸命に取り組む。  
人柄、人間性を涵養していく。

3・基本行動を徹底する。

目覚めの良い「朝起き」  
明るい元気のある「挨拶」  
思いやり、気づきの「清掃」  
気づいたらすぐする「即行」

感謝の心で「後始末」

万物万象すべてが自然界の法則に従って存在します。人間でさえも、自然界の法則から一歩もはみ出して棲息することはできません。

易不易の原理を活かし、変えるべきものと守り続けるべきものをしっかりと見極めて、さらに前進していきましょう。